

広報 きろく報 外号

発行所 黒崎町役場
印刷所 喜精堂印刷所

水道事業に

ご理解とご協力を!



いまから約二十年前、黒崎町の人口は約一万四千人であり、生活に、不可欠な水は飲料水を始め生活用水は井戸や川の水を使用していた。また風呂をわかす時には川や堀などからバケツや桶で何十杯も水を運ばなければならなかった。当時は衛生思想も低く水に対する関心も薄く水質の汚染などは余り気にしていなかった。その結果、伝染病である赤痢やチフスが恒常的にしかも大量に発生し、それによる死者は後を絶たなかった。

従って町は多大の医療費と患者の措置や予防対策に大わらわであった。昭和三十二年から三十三年にかけて黒崎町に待望の上水道が建設され給水が始まったのである。あれから二十年、水道の普及率は一〇〇%に達し、伝染病を無くし、台所を明るくし、家事の無駄をはぶき、産業の発展に貢献し、消防活動に大きく役立ち、明るい文化社会の造成に顕著な業績を残しながら現在に至っている。(発足当時の水道料金は一立方メートル二十五円であり、メーターの使用

料は三十円であった。また水の使用量は一日当り、最大量一、七〇〇立方メートルと記録されている。) その間町では、清浄・豊富・低廉の三原則をモットーに住民の健康と福祉の増進、生活向上のために水道事業に全力を尽くして取り組んで来たのである。

しかし、年々発展する黒崎町は人口の増加と企業の進出により、水の需要は大巾に伸び、昭和四十四年から昭和四十八年の五ヶ年計画で第一回の拡張工事を実施しなければならなかった。その結果一日当りの配水能力三、六〇〇トン、その約三倍にあたる一万一千トンに増強した。しかしその際の工事内容は、取水施設、急速ろ過池、配水池などの施設整備が主たるものであり、電気やポンプなどの機械室の改善は必要としながらも予算の都合などもあって整備の対象から除外された。その理由は少しでも、公共料金である水道料金を上げないと云うことがネライであった。その後、各家庭へ配水する心臓部の機械室は新潟地震の後遺症などの影響もあって、各所に不良箇所があらわれはじめ、既に使用に耐えられない部分も出ている。(二十年間の償却による老朽化も原因) この様な現況にありながらも水道料金は、昭和四十七年以來現状維持で今日に至っている。昨年度の決算では諸物価の値上りなどで水の製造原価は一立方メートル